
奇跡の日

西畑 歩

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

奇跡の日

【コード】

N2296N

【作者名】

西畑 歩

【あらすじ】

地球の危機を救った偶然。

「地球という星はまだか。」

宇宙を飛んでいる宇宙船の中の一匹の生物が偉そうに言った。

周りにも似たような生物がいるが、身なりや言葉使いからみてこの生物の身分が一番上なんだろう。

彼らの容姿は限りなく人間に近かったが、指が四本など少し違う点もあった。

彼らの故郷の星は科学技術がとても進んでおり、そのすごさは壮大な宇宙の中でも五本の指にはいるほどだ。

「おい、通信係。本当に地球という星は憎しみや恐怖で溢れているのか。」リーダーが怒鳴るように言った。

すると、近くにいた者が

「はい、偵察に言った衛生がすっかりとらえています。地球にいる生物は、原始的な武器を使い、自分と同じ種族の生命体を平気で殺している姿を。」

「しかし、どうしてこんな遠い星に我々第三部隊が出動しなければならぬんだ。」怒り気味の口調でリーダーが言う。

すると隣にいた副リーダーがなだめるように

「落ち着いてくださいリーダー。我々第三部隊の仕事はこの宇宙の中で将来、他の星に悪影響を与えかねない危険な種族がいる星を排除するのが仕事なんですから。」と静かな口調でなだめた。

「隊長、地球という星が高性能核爆弾の射程圏内に入りました。」

「そうか、しかしどれほど凶暴な奴らか見てみたいが。モニター係

可能か。」

すると、モニターの前に座っていた一人が

「可能ですよ。衛星から電波を受信すれば。」

「おお、そうか。ならすぐに映し出してくれ。」

モニター係は、3秒ほどで映し出した。

しかし、そこに映し出されたのは想っていた光景とは180度違う光景だった。

多くの人々がプレゼントを渡し合ったりしていた。

それに、そのプレゼントの中の多くは、愛の象徴ともいえるハートの形をした物が。

「おい、どういう事だ。報告とはまるっきり違うじゃないか。」

「そんなはずは、偵察に行った衛生の画像には……」

「つべこべ言うな。こんなに愛で溢れているすばらしい星はそんなにないぞ。引き返すぞ。」

そして、宇宙船はきた航路を戻っていった。

モニターに映し出された場所は、地球上の小さな島国日本。

日付は2月14日。そう、バレンタインデー。

プレゼントの自身はもちろん甘い甘いチョコレート。多くの形はハートの形をしている。

この、偶然生まれたイベントがかけがえのない地球という星を救った事は誰も知らない。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2296n/>

奇跡の日

2010年10月10日21時47分発行